

池田町の財政を考える（最終回）

20年、30年後の池田町を見据えて



池田町の将来人口予測

池田町の令和10年度の人口が、国の推計で8500人と予測されることから、第6次総合計画はこの年度の目標人口を9000人としました（下の表）。

このように、今後の急激な人口減少は待ったなしであり、しかも少子化と高齢化が同時進行するという過去にない事態が生まれます。

七千人でも安心の町を

池田町が一万人以上であった時期のシステムはもはや通用せず、人口減少・高齢化に加えて新型コロナウイルスによって財政収入減少に見舞われるとすれば、これまでの延長線上で物事を考えているだけでは財政の危機状況に

は全く対応出来ません。

「高齢者が半数を占める七千人の町」は、いま容易に想像することはできないかもしれませんが。しかしそれは直ぐ先のことなのです。

それゆえ、「七千人」でも安心して暮らせる町に移行するには特別の決意と対策が必要になります。

厳しい財政規律が必要

実は、このことは何年も前から分かっていた。しかし、表看板とは裏腹に町が実際に行ってきたことは、投資的経費増大による財政規模の拡大、借金増による地方債現在高の増加、財政調整基金の枯渇など、財政基盤の弱体化でした。

その結果、6月議会でも明らかにになったとおり、新型コロナウイルスの影響もあって、町の財

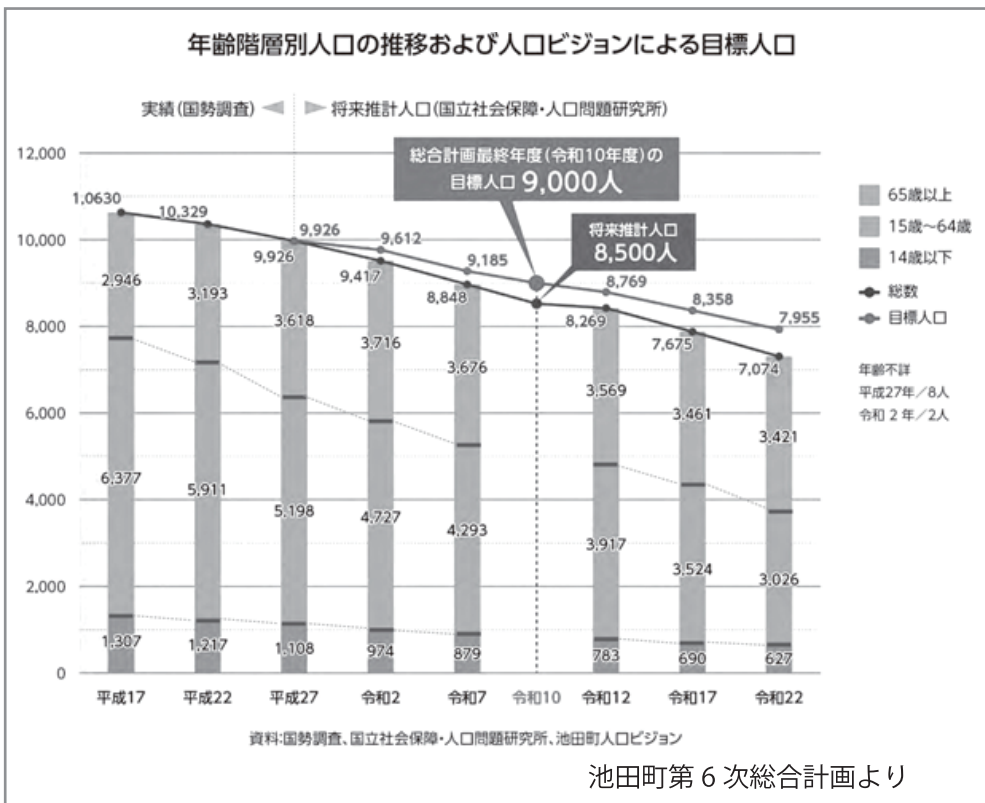
政は来年度の予算編成さえ危ぶまれるほどの大変な状態に陥っているのです。

危機的状況を回避し財政を立て直すには、当然ながら断固とした厳しい方針が必要です。また同時に中長期的な視野に立った町づくりの指針が不可欠です。

町民挙げて未来計画を

改革のためには、不要不急の支出にメスを入れることは当然ですが、同時に、高齢者と子どもが安心して暮らせるように施策のレベルを絶対に下げてはなりません。

町の施策の柱の一つである人口・移住対策について言えば、町中を中心に高齢者が暮らせる安価な住宅を確保し、町内移住を積極的に促進し、その結果生じた空き家を移住者に提供する「住まいの域内循環」の視点が必要になるでしょう。交流センター横の商業エリ



アを利用したシェアオフィスの建設、飲食店の誘致なども今後の重要課題です。将来計画に基づく基金の計画的積立、町民の声と意欲をくみ上げた施策、地産地消と地域循環型の経済など、新型

コロナ後の社会にふさわしい地域づくりが求められます。池田町の将来は、20年後を見据えた構想を町民を挙げて創りあげられるかどうかにかかっているといっても過言ではありません。（村端 浩）

部内資料

発行責任者 太田 勅 (62-5727)
議員連絡先 薄井 孝彦 (62-5093)
編集責任者 服部 久子 (62-4357)
山本 久子 (61-1066)

224号
2020年6月

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな～れ

6月議一般質問を傍聴 質問は6名、もっと活発な論議を！

池田町六月定例議会の一般質問が15日、16日に行われました。

3月15日実施された町長選挙では現職の甕聖章さんが再選されました。今回の一般質問は、町長の公約に対してあるいは今後4年間の町政の進め方などについて、議員との活発な論議になると思い傍聴しましたが、期待外れとなりました。

まず、議長を除く11名の議員中、質問に立ったのは6名のみでした。そして質問時間はコロナ対策として1名40分間（通常60分）に制限されました。

議員の中には時間切れとなり、予定されていた回答が得られない場面もありました。



薄井議員の一般質問

6名が2日間で費やした質問時間は約230分間（4時間弱）であり、一日の日程で十分だったようです。

町長回答の多くは「検討する」でしたが、事前に細かな質問通告をしているのですから、検討した結果を回答してほしいものです。

薄井孝彦議員は

- ①令和3年度池田町一般会計予算編成の考えについて
- ②新型コロナウイルス対策に対応した避難所対策について
- ③高瀬川の洪水対策について

服部久子議員は
①新型コロナウイルス感染症の町の対策を聞く、

②ごみ集積所の設置条件の改定を。と質問しました。

詳細は両議員の通信をご覧ください。

傍聴されたAさんに感想を聞きました。

「新町長になって初めての一般質問です。全議員が質問に立ち町長の考え、方針を質すべきではないでしょうか。議会は淡々と進められ、盛り上がりがないように感じました。2日間の日程を組んでいるのですから、従来通り60分としてもらいたいです。」

（傍聴者は2日間でのべ16名でした）

お願い

FCニュースへのご意見やご感想をお寄せください。

文芸欄

皆様からの投稿を掲載しています。

俳句

- 「三密」に縁なき山野 田植えすむ 幸代
- 頭痛薬 飲まぬ一日（ひとひ）の 梅雨に入る 美ちこ
- ファーマーズ 竹の子見つけ おこわ炊く 久子



コラム 有明

コロナの影響でほとんどの会議や集会が中止になる中、家の片付けを行いました。

本欄の隅からとても懐かしい書類が出てきました。「学童保育11年のあゆみ」で1982年（昭和57年）から11年間の、「学童保育の記録」と「子どもたちの作文」が載っていました▼保育園や小学校低学年の子どもを持つ数人が集まり、「長期休みに学童保育を実施してほしい」と町や議会に申し入れをしたのが運動の始まりでした。民家を借りて指導員をお願いし、親も休みの時は手伝いに入り池田と会染2カ所で運営しました。おばあちゃんに「家に年寄りがいるのに」と言われましたが、学童保育で過ごした日々は子どもたちの力になったと思います▼何回も議会や町に陳情を出しましたが毎回「不採択」で、児童館の建設が具体化したのは1992年（平成4年）でした。皆で力を合わせて頑張った若き日々を思い出しました。あのとき一緒に苦労した人たちは、今でも心通う友だちです。